

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2775500834		
法人名	社会福祉法人 寿光会		
事業所名	グループホーム寿光園		
所在地	大阪府八尾市楽音寺2丁目125番地		
自己評価作成日	平成 26年 4月 1日	評価結果市町村受理日	平成 26年 5月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2775500834-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 26年 4月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者に自分らしく生活していただく為に、利用者のできることや得意なことへの把握に努め、掃除や洗濯、食事などの日常生活場面に出る限り参加していただき、日々何気なく過ごすのではなく、「生活している」という実感を持ってもらえるような援助に努めています。また、余暇時間にレクリエーションを取り入れたり、四季折々の行事を企画し、生活の中に楽しみを持ってもらえるように努めています。健康管理の面でも併設施設の診療所との連携を密にし、健康上の問題点や不安な点などいつでも相談できる体制があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全国に先駆け、八尾市でモデル事業として始まった1ユニットのグループホームです。現在は、法人の高齢者総合ケアステーションの一部であり、地域に根差したグループホームとして機能しています。広々とした明るいホールは、1階にリビング兼食堂、2階が居室となっています。一人ひとりの具体的なケア計画を作成し、認知症があっても利用者のレベルに応じて環境を整えることで、本人のできることを引き出し、入居後も普通の生活を継続しながら、その人らしく暮らせるように支援しています。また、食事の支援については、併設施設の献立を基に、食材の購入から調理、片付けまでの一連の過程を可能な範囲で一緒に行っています。入浴は、曜日を定めることなく希望があれば毎日でも可能です。玄関は開錠しており、1階から2階のエレベーターも自由に行き来できます。利用者と職員、職員同士、管理者と職員の関係が構築されており、「あたたかい心・あたたかい笑顔・あたたかい手」の理念を具現化しています。

Ⅶ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示しており、パンフレットにも掲載している。また、毎朝のミーティングの中で話をしている。	法人の理念「あたたかい心・あたたかい笑顔・あたたかい手」をホームの理念として、家庭的な環境の中、できるだけその人が持つ力を発揮し、日常生活が営めるように支援しています。理念は事業所内に掲示しており、毎朝のミーティングで職員に周知しています。職員は、日頃より理念を具現化するために、利用者の思いを大切にしながら共に過ごしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなど施設の行事に地域の方々が参加してくださっているほか、2 ヶ月に 1 回の運営推進会議を通じて、地域の方々と情報交換をしている。	高齢者総合ケアステーション内のグループホームとして、長い歴史を持ち、地域に根付いています。近隣スーパーへの買物や散歩の際は、近隣住民と挨拶を交わし、馴染みの関係ができています。事業所内にはAED（自動体外式除細動器）を設置しており、地域住民が利用できるよう周知しています。また、事業所内に設置している自動販売機を、地域住民が自由に利用しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、その時期に応じた議題について話をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず開催しており、その中でグループホームにおいての利用者の状況や運営の状況など報告し、地域からの意見も参考にしている。	運営推進会議は、規程・規約を作成し、2ヵ月に1回開催しています。参加者として、利用者、家族、高齢クラブ代表、民生委員児童委員、地域包括支援センター職員で構成されています。会議では、事業所の活動内容やサービス向上のための取り組み、地域との交流・連携、課題、制度改正などについても情報提供をしています。参加者は、地域高齢者の核となる方々であり、定例会議を実施することで信頼関係が構築され、地域の様々な課題を話し合える場となっています。地域の情報を共有する中で、福祉サービスに繋がった事例があります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課と連携をとり情報の交換を行っている。	行政からの依頼を受け、市内ではじめて開設したグループホームです。市との連携を図りながら、グループホームの連絡協議会や事業所連絡会において、認知症ケアの質向上に向けた先駆的な取り組みを行ってきました。事業所連絡会全体で、認知症サポーターの養成も計画しています。また、事故発生時には、速やかに市へ届け出ができる体制を整えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送りや施設内研修などで、身体拘束は禁止であることを話している。また、やむを得ない場合の身体拘束についての手順なども話をしている。	研修会を実施し、どのようなことが身体拘束であるのか、また身体拘束をすることでの弊害について、職員間で話しあっています。今まで拘束事例はありませんが、やむを得ない事由で身体拘束をする場合の手順について、職員は周知しています。玄関の鍵は開錠しています。また、エレベーターも自由に乗ることができ、自由に2階の自室と行き来しています。また、階段を利用し、職員の見守りの中で昇降している利用者もいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	更衣時や入浴時などに身体のチェックをして注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度を利用している入居者がおり、関係者と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所面接時に重要事項の説明を行っている。その際に疑問点や不安など尋ね、説明している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに要望などを聞くようにしているほか、法人の玄関に意見箱を設置し、意見・要望があれば検討する体制がある。また、苦情受付窓口を設けているほか、介護保険課や国保連の窓口を重要事項に記載している。第三者委員の協力もあり、事業所内に苦情受付の案内を掲示しており、運営に反映させる体制がある。	2～3カ月に1回、「ことぶき新聞」を発行し、利用者の外出、レクリエーション、日々の暮らしの様子を掲載しています。また、「ことぶき新聞」は家族の希望により、郵送ではなく、ホーム内に掲示しています。意見や要望を引き出せるよう、意見箱の設置や家族の来訪時には職員から積極的に声かけを行っています。また、法人が開催する祭りなどの行事には、家族にも参加を呼びかけ、交流の場としています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の自己評価を年に2回実施しており、その中で職員の意見や要望を聞く欄を設けている。また、日々の中で申し送りなどを利用して意見などを話し合う機会がある。	計画作成担当者が職員の自己評価を基に個人面談を実施し、人事に関する希望も含め、意見や提案を聞く機会を設けています。利用者のサービスに繋がるような企画や提案は、可能な範囲で実施する体制を整えています。管理者と職員、また職員同士の関係は構築しており、利用者サービスに繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に施設内外を巡回し、ハード面での整備を確認しているほか、現場職員に声をかけている。また、職員通用口に意見箱を設置している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会に参加できる機会を設け、職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の協議会や府の協議会などに参加し、情報の交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員と利用者が一緒に過ごしている時間を設け、話を聞けるようにしている。また、訴えがあった際は出来る限りその場で聞くようにし、問題解決につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に不安なことや要望など聞くようにし話しをしている。また、面会時などにも聞くようにし信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の特徴や環境、性格に応じてサービス内容を提示して相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる事を職員と一緒に生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに必ず家族と職員が話す時間を設けて、現状説明など行い、対応方法を検討している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に家族に協力を求める声掛けを行っている。また、利用者との日々の会話の中で、生活歴や馴染みの場所などを聞き、テレビなどでその場所が出てくると一緒に見て話をしている。	利用者の友人が、ホームに訪ねてくることがあります。また、毎日近隣の商店に、食材やおやつを買いに出かけることで、新たな馴染みの場や関係を構築しています。機能低下に伴い、外出が困難になった利用者もあり、会話の中でなじみの場や話題を提供し、回想できるよう場面作りをしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりのレベルの把握に努め、利用者同士が円滑に行動できるように、職員がその輪に入るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、福祉に関する相談であればいつでも受けることを伝えていると共に、いつでも遊びに来てくれるよう伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者と生活している中で、利用者と過ごす時間を持つようにして、利用者からの要望や不安の解消などに努めている。	利用者や家族の暮らしへの希望は、入居時に聴取しており、記録に残しています。入居後も、日々の会話やケアの中からどのような暮らしを希望しているかを確認しています。ホームの暮らしは日常生活の延長であり、一人ひとりのペースにあった生活が継続できるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者とのコミュニケーションを大切にし、本人に昔の話を聞くほか、家族にも情報提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のレベルの把握に努め、日常生活の中で何ができるのかを把握し、一人ひとりに合った援助に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時などに希望などを聞き、職員と話し合い、利用者が安心して出来る限り自立した生活が出来るよう計画作成に努めている。	利用者や家族との関わりの中で、生活歴、できること、好きなこと等、日常生活の様々な情報を得て、具体的な計画を作成しています。介護計画は3ヵ月に1回、利用者や家族の要望、職員の情報を基に見直しを行っています。また、毎月の会議や日々の申し送りから利用者の状況を把握し、モニタリングを行っています。	利用者一人ひとりの生活歴等を職員が周知できるよう、また、日々の記録に介護計画が反映されるよう、今後は更に記録について検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤日誌やケースなどに状態の変化などを記録している。また、職員全体が情報を共有できるよう、連絡帳などを活用しており、計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに固執せず、希望に応じて検討し、対応できる機能がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんによる演芸会などに参加し、生活を楽しめるよう心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に事業所の協力医療機関を伝えているほか、希望の医療機関を聞いている。また、併設施設の診療所との連絡帳を作っており、利用者の状況の共有に努めている。	ホームの協力医療機関はありますが、利用者、家族の希望に応じて受診しています。法人内の併設施設に診療所があり、緊急時の受診や24時間体制が整っており、利用者家族の安心に繋がっています。提携医療機関より、1週間に1回内科の往診があり、1ヵ月に1回神経内科の往診があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の診療所の看護師がいつでも来れる体制があると共に、いつでも相談することができ、日常の健康管理などにも繋がっている。また、24 時間体制で看護師と連絡がとれる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際は、その病院の地域医療の職員と連携をとり、対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明の際に、重度化した場合のことについて話をしている。また、利用者が重度化してきた場合には、グループホームの職員、医師、看護師、家族との面談を行う機会を作り、今後について話し合うことができる体制がある。	入居時には、生活支援のホームとして、事業所のできることとできないことを説明しています。重度化や終末期の支援については、併設施設との連携を図りながら支援をしており、利用者や家族の安心に繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。また、緊急時に対しての対応方法など研修や申し送りで行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特養と合同で避難訓練や初期消火訓練を行っているほか、施設内研修などで話をしている。	併設施設と合同で年2回の避難訓練を実施しており、グループホームからも参加をしています。事業所の立地条件から、災害時には併設施設の協力が得られる体制が整っており、共同で避難経路等の確認を行っています。飲料水や食料品等の備蓄は、ホーム内と併設施設に保管しています。災害時でも排泄の対応ができるよう、オムツや防寒具なども準備しています。日頃より、消火器や非常階段周辺的环境にも注意を払っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声をかけるときのトーンや周囲の環境などを考慮しながら、利用者一人ひとりに合った声掛けや対応に努めている。	プライバシーの保護や利用者の尊厳について、職員研修を行っています。日常ケアで、言葉遣いや利用者への対応等、職員間でお互いに注意し合っています。排泄誘導の言葉かけ、食事の際、対面者への配慮としてテーブルに観葉植物を置いて目隠しをするなど、他の利用者との関係にも配慮しています。利用者の求めていることや要望等、気づきを大切にしながら、一人ひとりの尊厳が守られるように支援しています。また、居室は利用者の家であることを意識しながら、日々関わっています。居室に鍵をかけている利用者もいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	利用者に選択権があるような声掛けができるよう心掛けている。また、利用者と職員が共に納得して活動ができるように話をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気分や体調に応じた一日を過ごすことができるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪、顔そりなどは月に 1 回、美容師の来園した際に対応している。また、衣類が汚れれば更衣してもらい、好みに合わせた服を着てもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベルに応じて、できる範囲内で一緒に行っている。	併設施設のカロリー計算された、バランスや栄養を考えた献立をとりよせ、それを基にして、ホームで食材の購入から調理、盛り付け、片付けまで利用者と一緒にしています。身体機能の低下により、調理を一緒にできる利用者も少なくなりましたが、もやしのひげとりや玉ねぎの皮むきなど、できる範囲で一緒に行っています。食事の際には、利用者と職員と一緒に食卓を囲み、できるだけ楽しい雰囲気になるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス確保のため、特養の献立を参考にしている。また、定期的な水分補給に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に対し、食後は必ず歯磨きの声掛けと見守り、一部介助など行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のレベルの把握に努め、なるべく失敗しないようトイレ誘導を行っている。	排泄の自立については、個人の尊厳にかかわることであり、生きる意欲や自信、身体機能面でも残存能力を維持することにつながるため、できる限りの支援を行っています。排泄チェック表、日ごろの行動パターンで本人の習慣を把握し、さりげなくトイレ誘導などを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活場面での行動を中心に参加してもらっていると共に、食事摂取や水分補給に努めている。また、散歩なども気候のいいときに行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午前、午後とも入浴の時間があり、希望に応じて行っている。入浴は利用者のペースに合わせて入ってもらっている。	毎日、午前10時から午後5時頃までが入浴可能時間帯となっています。利用者の好みにより、朝風呂を楽しむ方、午後からの入浴をする方、ほぼ全員が毎日のように入浴しています。今後は、希望する利用者が夜間入浴もできるよう計画中です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	日中の日常生活場面で出来るこ とに参加してもらっており、安眠 に繋がるよう支援している。ま た、昼間でも横になって休憩を とれる体制がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	薬剤情報のファイルを作成し、 職員が薬の役割を確認できるよう にしている。また、利用者に薬 を服用にってもらう際は、必ず 日付、名前、顔などが一致して いるか確認して服用してもらっ ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	利用者の得意なこと、好きなこ と、嫌いなことなどの把握に努 め、日常生活場面を中心に役割 を持ってもらえるよう、支援し ている。レクリエーションなど も取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけられ るよう支援している	外出など家族に協力してもらっ ているほか、日常の買物などは 利用者と一緒にいくようにして いる。また、季節に応じて外出 をしたり、気候がよければ散 歩などにも行くようにしている。	敷地外での散歩や、近隣スー パーでの買い物等、利用者は 1日1回、外出する機会があり ます。家族の協力も得ながら、 外出の機会を増やしています。 家族のない方は、ホームが代 替を行っています。季節によ り、弁当持参で花見をしたり、 夏祭りに参加したりしています。 法人をあげての交流会では、 職員も模擬店を出すなど、生 活に彩りを添えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望によって、現在自己管理している利用者はいないが、高額でなければ所持してもらい、買物などに一緒に行き支払をしてもらうことができる体制はある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があればできるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時期に応じて装飾など行っているほか、職員と共に過ごす時間を持って家庭的な雰囲気が出せるように努めている。	ホームの1階は、窓が大きく採光を取り入れた居間兼食堂と、カウンターキッチンがあります。壁には、利用者の行事写真、職員との共同制作品を掲示しています。また、五月人形等、季節感も取り入れて飾っています。居間にはテレビのほか、ソファを設置し、利用者がゆったりと過ごせる空間になっています。食卓の中央に観葉植物を置くことで、パーティーの役割も兼ねており、対面の雰囲気を和らげています。居間の横には和室が2部屋あり、団らんや休養の場として活用しています。利用者は、エレベーターや階段を利用し、2階の居室と1階の共有スペースを自由に行き来しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には畳みの部屋もあり、一人になる事ができる空間がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使い慣れたものなどを持参してもらえよう家族に話をしており、できる限り入居前の部屋の感じが出るように努めている。また、入居してから本人の希望に応じ部屋の環境作りに努めている。	居室は、フローリングと畳の2種類があり、どの居室も大きな窓から明るい光が入り、ホーム周辺の田園風景を見渡すことができます。ホームではベッドやタンス、エアコンを設置しています。仏壇や家族の写真、使い慣れた家具、人形、小物等を持参し、利用者が居心地良く過ごせる空間を作っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者ができる限り残存能力を発揮し、自立した生活が出来るよう、必要な場所には手摺などがあり、職員の見守りのもと生活できるようにしている。		